

平成29年(2017年)9月16日

れきみん

資料館だより

No. Ⅲ-6

相生市立歴史民俗資料館

平成29年度特別展「相生のまつり」

市内各地の神社の祭りに行われてきた獅子舞等を、パネル写真や「ぼく画」(潮見満英氏作)で紹介しています。また、獅子頭等の展示やDVD「相生の獅子舞」(相生市文化会館扶桑電通なぎさホール3/20)の放映も行っています。

◇ 期 間：9月16日(土)～10月1日(日) 休館日：9月19日(火)・25日(月)・29日(金)

◇ 場 所：相生市立図書館2階「思索の広場」

〈資料紹介5〉森・磐座神社の獅子頭 [森獅子舞保存会所蔵]

平成29年度特別展「相生のまつり」の展示資料に矢野町森の磐座神社に伝わる雄獅子の黒塗り獅子頭があります。播磨地域では各地で多くの獅子舞が見られますが、勇壮な黒塗り獅子頭は珍しく、極めて貴重なものです。

この獅子頭は大振り^{おおぶ}りで、頭高は約27cm、頭幅は左右で約40cm、前後で約32cmを測り、約3.3kgの重量があります。雲形文を施した太い眉は大きく突出し、上顎・下顎の左右には長さ約6cmもの牙^{きば}が付けられています。

耳下部・下顎後部は木を用いていますが、他は乾漆作りと思われま^{かんしつ}す。舌は紙質で、長さ約13cm、幅11cmと小さく、薄いものです。

外面全体は黒く漆^{うるし}が塗られ、目や歯・牙、隈取^{くまどり}などには金箔^{きんぱく}が施されています。鬣^{たてがみ}や耳毛(馬毛カ)は黒一色で、約35cmの長さがあります。色物の装飾はなく、鈴も付けられていません。

内面は全体に赤色顔料(ベンガラカ)が塗布されています。側部や下顎の把手はなく、最後部に3本の柱状木を縦に取り付けて把手とし、下顎や耳の操作をするようにできています。

なお、ほろは茶色の生地に鬣や卷毛を白黒で表現した同心円文や毛氈文^{けまんじもん}が配されています。



森・磐座神社獅子頭 (撮影：2017.9.9)

磐座神社に獅子舞が伝わったのは江戸時代末期で、山崎・佐用方面から伝承されたといわれています。しかし、なぜ市内で磐座神社だけに黒塗りの獅子頭が存在してい

るのか、現在のところ不明というほかありません。

1983年（昭和58）の調査によると、磐座神社の獅子舞は10月9日・10日に行われています。9日の宵宮は午後7時から道引・「雄獅子の舞」から神事・「浦安の舞」の奉納、獅子舞へと続き、10日も午後3時から同様に神社で獅子舞が行われたと記されています。

この黒塗りの雄獅子が登場して舞うのは、神社の鳥居近くから舞い始める「雄獅子の舞」だけで、他で出ることはありません。鼻高はなだかと雌獅子めんじしに加わって雄獅子が登場して鼻高と掛け合う舞のしぐさも、近隣地区では見られない珍しいものです。

獅子舞の種目は次のとおりです。

- ①道引・雄獅子の舞 ②八島 ③切込 ④置ぼたん ⑤だに ⑥鎌切
⑦吉野 ⑧伊勢音頭 ⑨えひらい ⑩四方舞

途絶えていた磐座神社の獅子舞は2008年（平成20）に復活実施されましたが、現在は再び途絶えています。



森・磐座神社の獅子舞「雄獅子の舞」のようす（撮影：橋本一彦 2008.10.12）

〈参考文献〉

佐々木泰彦 1987「祭礼と民俗芸能」『相生市史』第4巻（相生市・相生市教育委員会）

* 本資料の展示について、森自治会の皆様から多大なご支援いただきました。とりわけ、西田清和氏（自治会長）には獅子舞等についても有益なご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。

（中濱久喜）